

会 議 録

会議の名称及び会議の回	飯田市社会教育委員会議 平成 30 年度 第 2 回定例会
開催日時	平成 31 年 3 月 19 日 (火) 午前 10 時 00 分～
開催場所	飯田市役所 A 棟 3 階 A301・302 会議室
出席委員氏名	今村光利、植松敏明、上河内陽子、小島稔、近藤力夫、永井祐子、中島正韶、仲村信治、名子晃、服部珠予、三浦宏子
出席事務局職員	代田教育長、三浦教育次長、高坂学校教育専門幹、北澤生涯学習・スポーツ課長、馬場文化財担当課長、小椋歴史研究所副所長、秦野公民館副館長、木下管理係長、中島文化会館長補佐、池戸美術博物館副館長、小嶋地育力向上係長、今村主査、熊谷主査、島田主査、原主事、熊谷社会教育指導員
会議の概要	以下のとおり

※公表の会議録は正副座長以外は（委員氏名）を掲載しません。

1 開会

2 あいさつ

（代田教育長）

皆さん改めましておはようございます。本日は今年度第 2 回の社会教育委員会議にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また日頃より飯田市の行政また教育行政にご支援いただき、社会教育委員としてご尽力いただいておりますこと、改めて感謝申し上げたいと思います。いつもありがとうございます。

今年度は、社会教育委員会議、2 回ということになりました。11 月に「関東甲信越静社会教育研究大会 長野大会」があったために、例年より 1 回少ない会議というかたちになりました。

また、この会議は 1 期 2 年の締めくくりの会議になります。また今年度の締めくくりの重要な会議となりますので、たくさん活発なご議論をいただけたらと思います。

さて、私ごとではありますが、ただ今開催中の議会において、二期目の承認をいただきました。3 年間教育長としてしっかり一所懸命やっていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

その中で今思っている、また考えている抱負ですけれども、皆さん一緒に作っていただいた「第二次教育振興基本計画」の重点目標の 3 年目に来年度なります。この重点目標に改めて立ち返りさらに推進していきたいなというふうに考えています。

改めてですが、重点目標の一つは、すべての子どもたちが輝く学校を地域ぐるみで創るということで、コミュニティスクールを中心として、学校を学校だけが運営するのではなくて、地域や保護者が入り、もっと豊かな学びを創りあげていこうという大きな方針を立てたわけでありまして。

課題の二つ目、地域と日本と世界を結ぶ「L G（地域・地球）飯田教育」を推進しますということで、振興計画を立てるときに、田舎にとどまっている学力だけではなくて、世界へも視座を広げて活躍できるようなたくましい子を育てていこう、そんなご議論を皆さんからいただいたかなというふうに思っています。なかなか難しい取り組みではあると思うんですが、リニアの開通を見据えた飯田市ならではの教育を推進していきたいというふうに思います。

三つ目としては、伊那谷の自然と文化を守り育み世界につながる価値を創発します。現在は史跡恒川官衙遺跡の史跡公園整備事業に注力しているところではありますが、伊那谷の自然と文化をしっかりと後世に残すという機会となるのかなとそんなふうに思っています。

こうして三つの目標を改めて確認させていただくと、これはやはり社会教育の視点が非常に大事だというふうに改めて思います。学校教育の視点はもちろんあるんですけれども、新たに生涯学習の視点や生涯教育の視点、社会教育の視点、こういうものを入れた目標になっているんだな、と改めて思います。

ですので、私の抱負としては、この社会教育と学校教育の融合が大きなテーマとなってくるんじゃないかなとそんなふうに感じているところであります。

そうした中で来期につながるわけですが、一つだけ私の方からご案内を申し上げますと、1月に大変楽しみにしていた中学生の「キャリア教育推進フォーラム」、これがインフルエンザのために、延期になりました。今月 23 日土曜日に、ジュニアリーダーの発表の場として、市長報告会を開催いたします。社会教育委員の皆様にはご案内をしておりますが、ぜひ子どもたちの熱い思いを見守っていただければと存じます。

活発なご議論と、ますますのご健勝を祈念しまして、私からのあいさつとさせていただきます。本日はよろしく願いいたします。

3 報告・協議事項

(1) 社会教育関係各課・館・所の平成 30 年度及び平成 31 年度の事業について

(北澤生涯学習・スポーツ課長)

報告・協議事項に入らせていただきます。進行を中島座長にお願いしたいと存じますので、よろしく願いいたします。

(座長)

皆さん、改めましてこんにちは。協議に先立ちまして一言御礼を申し上げます。委員の皆さん、1年間、また任期の2年間、お疲れ様でございました。

ご案内のように社会教育委員の仕事は、通年、いつでも、どこでもということの中で、いろいろと取組をいただきながら、またご一緒に仕事をさせていただきながら、委員の皆様方のご活躍を見たり聴いたり、本当に素晴らしいと思いながら、感謝する次第でございます。

そのような活動や学びを支えていただいております教育長をはじめ事務局の皆さんに厚く御礼申し上げます。

盛りだくさんの内容の中で、1時間、11時をめぐりにご案内の報告・協議をいただきまして、その後、私たち2年間のまとめということで自主研修会を1時間取らせていただきまして、そして次年度へつなげていく飯田市社会教育委員のあり方といったことについて意見交換をさせていただくといった予定で進めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは3(1)の報告でございますが、各課・館・所それぞれ3、4分でお話をいただきますようお願いいたします。

(担当より説明)

(座長)

短い時間の中で絞って内容説明、報告いただき、ありがとうございます。区切らずにどこからでもご意見、質問、要望等出していただくという形で進めたいので、よろしく願いいたします。

美術博物館の最後の方、上村民俗資料館の解体について、その後はどうするのですか。

(池戸飯田市美術博物館副館長)

上村民俗資料館につきましては、村当時に移築をした建物でございます。有志のある方からいただいて、当時上村がそれを小学校の隣に移築をしたという経過がございます。合併した当時から休館状態ということでございました。ご覧になった方もいるかもしれませんが、中にはお蚕を飼っていた時の小道具ですとか、時計ですとか農耕作の道具が展示されていたところがございます。一回移築を行ったということもございまして、屋根の方の傷みが進んでおりまして、雨漏りがするという状況が続いております。公共施設のマネジメント等考える中で、今回解体するということとしました。土地ですが、借地でございます。従いまして解体した後は地権者へお返しするというところでございます。

(座長)

ありがとうございます。民俗関係資料につきましては気になるところがあるので、何回か〇〇委員さん発言しておりますが、何かあったらどうぞ。

(委員)

その解体はよくわかりましたが、中身はどのようにされますか？

(池戸飯田市美術博物館副館長)

中身につきましては2段階ございます。まず、合併をして飯田市へ引き継いだときかそれ以降に、大事な物、それから預かっているものについては、伝承館の方へ引上げをさせていただき、展示をして公開しております。逆に言いますと、もういただいたまま有効活用できないという物が残っていたという状況でございます。その品物につきましては、今後地元のまちづくり委員会、地域協議会へお諮りをしますけれども、活用できるようであれば、まず地元の方に一度見ていただいて、確認をとりたいたいというふうに思っております。しかしそこで活用の見込みがないということになりますと、処分をしていくという流れになりますけれども、この案件の理事者決裁の中では、なるべく処理費をかけないように有効活用するようにとの指示をいただいておりますので、そのように進めたいと思っております。

(委員)

なぜこのような質問をしたかといいますと、私たちの地区でたとえば民俗資料のようなもの、それからニアも関わりますけれども、家を解体したとかでそのような民俗資料のようなものを引き取ってくれという要望が来ます。何とかそういうものを保存できないか、特に子どもたちの学習にうまく活かさないか、民俗資料も歴史資料もそうですけど、そういうものが環境としてきちんと備わっていることは非常に大事なことだと思うんですね。私たちの資料館もございますけれども、置く場所がなくて非常に困っているし、できれば、たとえばですね、学校の空き教室のようなものがあれば、そういうところを借りて置いておくということが極めて大事なことで思っております。校長先生にもそのような要望をお話したこともあるんですけども、そういうものに対してやはり、ぜひ大事にとっておいて、環境としてあるということはそれが記憶力となるので、学校の中でそういう環境があれば、そういうものを大事に整理しておけないかということ、非常に強く感じております。これは学校ではそのようなことをどのようにお考えになっておられるのか。

(三浦教育次長)

教育委員会全体に関わることでありますので、私の方から今の状況を説明します。たとえば竜丘小学校はすでに余裕教室を、民具とか農機具を配置して自分たちの学習、また文化祭等で地域の住民の皆さんに見ていただく、そういう展示をしています。今日の時点で28校飯田市にありますが、全体でどれくらい利用しているかということは頭の中に入れていませんが、〇〇委員さんがおっしゃったように地域における学習にとって検討が必要だと考えます。飯田市全体で、たとえば美術博物館、歴史研究所等収集した時の保管庫とか、保存するためのスペースが基本的にないですから、今言われたようなことは、検討の一つになっていくかと思っております。検討課題として、今日校長先生お二人いらっしゃいますけれども、教育委員会で検討していきたいと思っております。

(座長)

ありがとうございました。社会教育、学校教育につながるお話でございまして、私も高校の教員をやっております。千歯こきとか、ごいごいっていいですか、足でやるやつですね、あれなんかを民家から借りてきて、あるいはもらってきて、そして学校へ置くんですが、授業としては年に1回だけ、1時間だけかつそれも数分だけです。ごいごいは豆殻を取るんで貸してくれと学校に言われて貸し出すこともあったようですが、今のお話のように学校内にあれば見られるので非常に大事なことはないか。そこら辺のところをちょっと付け加えさせていただきました。

他にございませんか。

(委員)

資料1の2ページです。宇宙教育推進事業の中の宇宙留学サマーキャンプ2018の参加者が10名というのがあるんですけども、定員が10名ということでしょうか。

(北澤生涯学習・スポーツ課長)

定員は30名であります。

(委員)

10名ということは少し少ないと感じますが、理由はありますでしょうか。

(北澤生涯学習・スポーツ課長)

実施にあたりまして一番いい時期、8月の12日から13日がペルセウス座流星群が観測できる、これは非常に珍しい機会ということで、どうしても時期的なところで、小学校5・6年生が対象ですので、なかなか日程を合わせるのが難しかったということがございます。参加された皆さんにおかれましては、非常に満足されていたと、そういう総括でございます。

(委員)

飯田市公民館の関係で、社会教育指導員設置事業の中で、日本語教室、昨今外国人労働者の関係で生活支援に力を入れていくとテレビで取り上げられているんですけども、飯田市の場合は外国人労働者の生活支援の部分に踏み込んでいこうと考えられているのか、交流が主にか、教えていただきたいと思えます。

(秦野飯田市公民館副館長)

公民館の行っている日本語教室なんですけれども、労働者でお見えになっている方は、会社や受け入れ先が担当することとなっております。私ども文化庁の補助金を受けているのは、そのご家族ですとか、今すでにこちらに住んでおられて、労働関係の日本語教室で受け入れられない方を対象としております。今お話があったとおりでありまして、一番大切なのは生活をどうしていくかということでありますので、この日本語教室は日本語の支援者、プロの日本語を教える方だけではなくて、地域の協力をしていただける支援者の皆さんに集まっていただいて、実際に生活で困った場面を皆さんと共有して、どういうふうにしていったらいいのか、たとえばごみの出し方ですとか、役所への申請書だとか届出の出し方、そういうことも一緒に勉強しておりますし、さらにこの地域の、たとえば今年ですと今田人形といったものを一緒に学んで行ったり、あと遠山郷へも行かせていただいてこの地域を学ぶということで、生活文化というのを公民館の場合は中心に行っています。ただし、今後多くの外国人の皆さんが来られるということで、今までのやり方でいいのかということがありますので、男女共同参画課等と協議を進めながら、どのようにしていったらいいのか、31年度は文化庁の補助が終わりまして、自治体国際化協会の助成事業に切り替わりますので、もっと地域の中で生活を支えられる日本語の支援者の育成というところも力を入れていきたいと考えています。

(委員)

もう一点、地域人教育の関係で、新たに飯田女子高校との連携ということで、高校の選択の経過をお聞きます。

(秦野飯田市公民館副館長)

飯田女子高校との連携というのは、飯田女子高校が進学コースEクラスというのを立ち上げます。このEクラスというのは、普通科の中で、地域課題の探究的な学びを取り入れて、学びの意欲を高めていく、さらに今、大学入試がAOという形で、プレゼンテーション等非常に重要視されてきている中で、地域の皆さんと学んだことを大学入試の際に、発表できる力をつけていきたいということで、地域と一緒に学びの場を作っていくというコースを一つ設けます。15名定員でありまして、現在のところ、発表できる範囲ですと、17名、1、2年生合わせて、今の2年生も進学クラスや普通クラスからこのクラスへ移行するというようなことで、1、2年生合わせて17名でスタートするという形になります。そのような中で地域の学びということでございますので、地域人教育を今まで進めてきました飯田市としましても、専門高校から普通高校への水平展開の一步と言うことで、女子高と連携していきたいと考えております。

(座長)

高校生社会参加、高校生社会貢献に関して、昨今それぞれの形で次の世代の社会教育のリーダー

が育っているということでもとても素晴らしいことだと思っているところでございます。社会教育委員としては、どういうふうな形で、それぞれの地域で関わっていくかというのは課題であると思いますので、また考えていただいておりますのほうがいいのではないかと思います。

〇〇委員さんの方から日本語教室とかの関係で何かございますか。

(委員)

私も公民館のところで伺いしようと思っていたのですが、平成 31 年度は日本語の支援者の育成を進めるということを計画しているようですが、今まで文化庁の補助を受けて開催してきた外国人対象の日本語教室については、待ち望んでいる住民の方多いと思いますが、31 年度公民館としては開催できないというような形になりますか。

(秦野飯田市公民館副館長)

従来どおり日本語教室は開催していきます。その支援をする皆さんを育成していきたいということで、日本語教室自体は文化庁の補助金は終わりますけれども、その補助金でお手伝いをしていただけの方が育成されてきていますので、その皆さんにお願いしながら従来どおり行っていきますけれども、それだけだと地域の支援者が少なくなってしまうので、その支援者の育成の方も併せて進めるということで、この助成金を受けるということでもあります。

(委員)

私も日本語支援の授業に関わっておりますが、学校現場をみますと、やはり日本語を学ぶということへの支援、今いろいろなニーズと申しますか、個別の対応が必要なお子さんがいらっしゃって、その地域の日本語の支援者の方が学校の中で関わられるような機会が少ないような気がするのですが、そういうふうになればいいと感じますが、そのあたり教育委員会としては必要性みたいなものとか今後の見通しなど何かありますか。

(三浦教育次長)

質問の回答になっているかですが、教育委員会は 28 校で外国籍児童、生徒のために 5 名の仲介をするような方を直接市で、臨時職員ということですが、雇用してしまして、この教室の方たちとの連携がとれているかというのは、これから増えていく可能性が高いので、検討したいと思います。

(座長)

ありがとうございます。報告・協議事項まだございますので、あともう 2、3 人の方からご発言いただければと思いますが、それと同時に社会教育委員の 1 年、あるいは 2 年の中から感想を含めながら、ご発言をいただければありがたいと思います。

(委員)

この 2 年間のまとめということで、報告書を上げさせていただきました。それから私たち自分の地区のいろいろな活動を見させていただきまして、教育振興の 3 つの方針、あるいは取組の柱があるわけでございますけれども、前期 2 年終了するわけですが、非常に豊かな取組がなされているということを、これを見させていただいて感じております。取組がだんだんと点から面に、質的にも深まっている、そういうことを実感しております。たとえばですね、科学実験教室推進事業というのは、ずいぶん深まっている、面を広げようとしている、幅が広がっている。

私の地区の学校も〇〇さんにご指導いただきやりましたけれども、それを継続しながら地区の者たちも指導できるようなものをご指導いただき、ある程度地区でも担えるような形になってきておりまして、そういうような面がいくつもあるわけでございます、大変ありがたいことだと、たとえば LG 飯田の事業につきましても、地域人教育のことにつきましても、最近ですね、今まで小学校、たとえば私たちの桜案内、今までは小学校が中心になっていたものが中学に発展しまして、最近では高校生も加わるように、数はそんなに多くはございません、それだけではなくて夏祭りだとか、あるいは子どもたちの天竜川の水辺の遊びなど、積極的に高校生がそういうところへ入っていく、そういうつながりがそこでできてきている。そういう意味では私はありがたいことだなあと、こういうことを強く思っております、ぜひご努力いただいております、教育委員会もそうですし、それを支えてくださる地域の皆さん方の

ご努力を思いながら、ぜひ一つ来年度もこれを力強く進めていただきたい、そういう思いを、これを見させていただいて強くしました。

(委員)

平和祈念資料室のことで、どの程度今利用者がおるのか、はたまた資料の充実はどの程度進んでいるのかお聞きしたいと思ひまして、さらにプロジェクトを開催されているようですが、中身っていかどんな内容で進められているのか、お聞きしたいと思ひます。

(北澤生涯学習・スポーツ課長)

平和教育につきましては、ほぼ毎月1回平和資料収集委員会プロジェクトを開催しておりまして、飯田市公民館にある平和祈念館資料室は奇数月の第1日曜日及び要望があった日に開館しております。今年につきましては、特に大きな訪問がありまして、満蒙開拓平和記念館を見学した後で50人から100人の参加がありました。たくさんの資料が集まってきておりますので、整理が課題となっております。しまいこんでいる資料がありますし、新しい資料も集まってきていますので、今後展示替えをしていきたいと思ひます。

(座長)

お約束の時間の11時が迫っております。さらに発言をされたい方が大勢おられると思ひますし、この1年の総括、あるいは2年の総括をする会でございますが、少々1時間では短いという気がします。

(3) 2019年度飯伊地区社会教育連絡会議総会・研修会について

(担当より説明)

(座長)

ありがとうございました。飯伊社教連の総会は今から4年前に飯田が当番で開催をいたしまして、その時は高松和子先生に講演をいただいて、その後、おもしろ科学工房でかごこ子どもの森公園へ行く組と、文化会館で人形づくりと人形劇をやりながら人形劇に迫っていくという形で行いました。

こんなことがいいんじゃないかというものを出示していただいて、この後の社会教育委員研修会の中で話していただきながら、正副座長と事務局の方とで詰めて調整するような形で進めたいと思ひます。ここで2、3要望を挙げておいてもらいたいのではないかとと思ひますが、いかがでしょうか。

恒川官衙遺跡やら、あるいは座光寺の石川除けとか、あるいはリニアの予定地等ありますが、いずれにいたしましても文化財の保存・活用といったテーマでやるとすれば、馬場課長さんのお世話になると思ひますし、午前中の講義の中でそれに関連した形で文化財保護の活動をしている団体の事例発表を入れるとか、そういうような形もでてくるかもしれません。

あるいは来年からプログラミング教育といったことが小学校の教育課程の中に導入されてきます。そういうプログラミング教育と社会教育といったいろいろな考え方があると思ひます。あと5分くらいはいいですか。

(委員)

恒川官衙遺跡へ行き、説明を聴きたいなと思っていたので、小林正春さんらに講義をいただいての研修がよろしいかなと思ひます。

(委員)

2年間関わりまして、今年非常に感じたのは、担い手、支え手の育成というところで非常に、飯田市は小学校、中学、キャリア教育、カンボジアの高校生、非常に公民館の方へ力を入れて支えてやっているなあと思ひましたので、成人式が、18歳になってくるのにどうなのかなあとちょっと思っていたんですけど、先月ありました公民館大会で成人式のことが出て、そこもまた次の担い手をつくる、地域と疎遠になってしまった飯田を離れている人、また飯田で働いている人が、なかなか地域と交われない

若者が地域と関わるチャンスとして捉えているんだっていうことを深く感じまして、点じゃなくて線なり面となつてつながっていくことなのかなと思いましたので、カンボジアはもうやったのかな、ああいう事例もこの総会の時に入れてもいいかなと思いました。

(座長)

課題とか話題とか、社会教育の飯伊の総会でございますので、その形の中で何がいいかと悩んでいる訳でございますので、ご発言をお願いします。

(委員)

社会教育連絡協議会でどんな話をつていうのはあるんですけど、現地研修とかそういう社会教育に関わりがあるんですけど、私は今、長寿社会開発センターというところで、高齢者のシニア大学を運営しております。社会教育との関わりで、県の方に木下巨一さん、船木さんが行っております。シニアの学びというところでは連携をとってやっております。高齢者の社会参加というのを求められる時代になって、充分担い手としてやっていただくということで、シニアの学びという接点で言うと、シニア大学の方にも提案したんですが、郷土の偉人たちがどのようにつながってどういうシステムを開発で作り上げていったか、南信州新聞にも出している牧内良平さん、川路出身の神奈川大学の理事長に就任したのかな、今年 80 歳になる方だと思んですけど、元神奈川新聞の会長さん、江川昭子さんの上司だった方ですけど、ジャーナリストで、その方が飯田出身の偉人たちがどういうふうに育って、どういう人間関係を築いたかということ、南信州新聞にたまに掲載をされているんでシニア大学の方でも名前を挙げている人ではあるんですけども、そういう方がかつて人を育成してきたという部分をどこかで話を聞く機会ができればいいなと思いつつ、この講師が呼べるかわからないんですが、そんな考えがあります。

(座長)

ありがとうございました。

飯田市の社会教育の活動についての総括につきましては、先ほど〇〇委員さんの方でまとめていただきまして、私たちもそのような認識であります。

司会の方をお返しします。ありがとうございました。

4 各課・館・所からの報告事項等について
なし

5 来年度の日程 (予定)

(事務局から事務連絡)

6 その他
なし。

10 閉会
(副座長)

皆さん、短時間ではありましたが、密度の高い議論をいただき、ありがとうございました。
以上をもちまして、平成 30 年度社会教育委員会第 2 回定例会を閉会いたします。

終了後、社会教育研究会 (社会教育委員による自主研究) を実施。